

●THUNDERBIRD® Probe qPCR Mixの使用条件 [ABI QuantStudio™ 7 Flex]

(1)反応液の調製

以下に、TaqMan® Probeを用いた20 µL反応時の調製例を示します。

試薬	20µL反応	最終濃度
滅菌水	X µL	
THUNDERBIRD® Probe qPCR Mix	10 µL	1x
Forward Primer	6 pmol	0.3 µM*1
Reverse Primer	6 pmol	0.3 µM*1
TaqMan® Probe	4 pmol	0.2 µM*1
50 × ROX reference dye	0.04 µL	0.1x
DNA溶液	Y µL	
合計液量	20 µL	

*1:プライマー・プローブの発売元から、添加濃度が指定されている場合は、発売元の指定条件に従ってください。
増幅効率が不十分な場合は、プライマー濃度を増やすことで、また非特異反応が発生する場合(低濃度の
鋳型での反応で増幅曲線の立ち上がりが悪くなる場合)は、プライマー濃度を減らすことで、反応結果が
改善することがあります。プライマー濃度は、最終濃度0.2~0.6 µMを目安にご検討ください。

(2)PCRサイクル条件設定

ステップ	温度	時間	昇降速度
初期変性	94° C	60秒	最大
PCR 変性	95° C	15秒	最大
(40 cycles) 伸長	60° C*2	60秒	最大

(Data Collectionは伸長ステップに設定します)

*2:十分な増幅効率が得られない場合は温度を低めに、非特異的の反応が発生する場合(鋳型濃度が低い
サンプルで、増幅曲線の形状がゆがむ場合)は温度を高めに設定することで、反応が改善されることが
あります。56~64° Cの範囲を目安にご検討ください。